

島根県下の糖尿病患者を対象とした 糖尿病性神経障害の実態調査

かき ば とし あき さ どう とし あき
垣 羽 寿 昭¹⁾ 佐 藤 利 昭¹⁾
の 野 つ たつ あき くず お のぶ ひろ
野 津 立 秋²⁾ 葛 尾 信 弘³⁾

キーワード：糖尿病性神経障害 Diabetic Neuropathy
アキレス腱反射 Achilles-Tendon Reflex
振動覚検査 Vibration Sensation Test

要 旨

島根県下37施設に通院する糖尿病患者502例を対象に日本臨床内科医会作成の「糖尿病性神経障害チェックシート」を利用して糖尿病性神経障害の実態調査を実施した。

自覚症状の有症率は「しびれ感」31.1%、「痛み」19.1%、「感覚異常」20.5%、「こむらえり」27.9%であった。アキレス腱反射は89.2%の症例で実施され、異常率は42.6%であった。糖尿病罹病期間が長くなるほど、アキレス腱反射に異常を認めるほど自覚症状の発現率が高かった。

「糖尿病性神経障害チェックシート」を利用して自覚症状を問診し、アキレス腱反射と組み合わせることが神経障害の有無の判断に有用であると考えられた。

はじめに

近年、糖尿病患者は増加しており、その予防と治療の重要性が増してきている。糖尿病治療の目標は、血糖・体重・血圧・血清脂質の良好なコントロール状態を維持することによって、糖尿病性細小血管合併症および動脈硬化性疾患の発症・進

展を阻止し、健康な人と変わらない日常生活の質(QOL)を保ち、健康な人と変わらない寿命を確保することにある¹⁾。しかしながら糖尿病性合併症を有する患者は増加しており、特に神経障害は3大合併症のうちでも比較的早期から出現し、糖尿病患者のQOLを損なう大きな原因になっている。そこで、島根県下の糖尿病患者における神経障害の実態を明らかにし、今後の治療の一助とする目的で調査を行った。

Toshiaki KAKIBA et al.

1) 松江赤十字病院糖尿病・内分泌内科 2) 野津医院

3) 島根県臨床内科医会会長

連絡先：〒690-0886 松江市母衣町200